

常任委員会の先進地視察報告

文教民生常任委員会



研修風景（文教民生）

健康増進事業

視察地 新潟県見附市
期 日 10月4日、5日

新潟県見附市は平成14年9月より、つくばウェアネスリサーチが提供し

ている運動プログラムを取り入れ、中高齢者の健康運動教室を実施。
結果、参加者の体力年齢は総じて若くなり、プログラムが終了しても、



見附市から説明を受ける

自主的に活動を継続する参加者は9割になる。
また、運動教室がコミュニティケーションの場ともなり、やりがい・生きがい創出に繋がる副次的な効果も生んでいる。
見附市の人口のうち、65才以上が占める割合は約2割で、約500人が寝たきり状態である。
見附市では「寝たきりゼロ」を目指し、市民が元気で健やかに暮らせる

よう、市民病院を核として医療・介護の一元的なサービスを行い、「医療福祉の里」の充実に努めている。更にいきいき健康づくり事業として「運動」「食生活」「検診」「生きがい」の4つの観点から様々な取り組みを行っている。
伊奈町においても年々高齢化が進み、取り組みを更に押し進めなければならぬ事業である。この度の研修はその一案となる視察となった。
(委員長 矢部松男)

企画総務常任委員会



地方分権と行財政改革について説明を受ける

地方分権と行財政改革

視察地 新潟県上越市
期 日 10月10日、11日

企画総務常任委員会の所管事務調査について報告します。

上越市は平成17年に近隣14市町村が合併し、人口21万人、面積973km²の自治体です。

調査内容は

- 一、特例市移行による自主自立のまちづくり
- ニ、ISO9001の導入
- 三、パブリックコメント（市民意見提出制度）制度の実施状況



上越市役所前にて

上越市は19年4月に特例市に移行しました。上越市を除く13町村を地域自治区として自主自立に向けた新たな取り組みを実施しています。また、ISO9001（品質）を活用しマネージメントサイクルの定着を図っています。展開として市民課 高齢者福

祉課、雪対策室の3課で、市民サービスの向上につとめています。パブリックコメントについては、市民の行政への参画を進める方針や、市民と協同のまちづくりに徹する行政運営を研修しました。

（委員長 村山正弘）

建設産業常任委員会



特色ある農業について説明を受ける

特色ある農業

視察地

・ 神奈川県横浜市

「寺家ふるさと村」

・ 開成町

「あじさいの里」

期 日 10月22日、23日

横浜ふるさと村は、良好な田園景観を有する農業地域を対象に生産施設、研修施設、運動施設等を整備しました。市民が広く自然・農業・農村文化に親しみ理解するための自然空間を提供すること



「寺家ふるさと村」を視察

により、都市市民と農業者との交流を図っています。これは長期に渡り農業地域の振興と保全を図ることを目的として行われた事業で、総事業費9億1千200万円、総面積86・1haで昭和62年開村したそうです。

村内には豊かな自然を持つふるさとの森、きつちり区割りされたほ場、数々の池と水車。郷愁を誘う風景でした。あじさいの里は17・2haの田畑を暮盤の目のよりに区切る道や水路に沿

って5千株のアジサイが植えられています。

昭和53年から農村基盤総合整備事業を実施、同58年に完成。ほ場整備により田畑、農道、用水路が整然となり、農作業は便利になったが、自然の景観が失われ、味気ない機能的な地域になったため、緑化事業として植えたそうです。

両者とも、消費者の農村に対する哀愁が、入村者の多い理由であると思われま

（委員長 高橋康一）